

部会での意見と対応方針【観光・産業振興部会】

協議会事務局
令和2年10月28日

No	項目	意見等	対応方針	委員発言
1	全体	新幹線に関係なく議論していかねばならないものが散見される。もっと新幹線を活用することに特化した形で部会を進めていかねばならないと思う。もう少し問題を整理し、より深度化した話が出れば良いと考えている。	・新幹線との関連がわかるよう、各項目の冒頭に、それぞれのねらいを記した概要文章を記載する。	第2回部会
2	1(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発	小樽は観光エリアごとに地区分けがなされている。奥沢地区についても今後「新幹線駅周辺地区」などと位置付けたほうが、色々な施策と関連付ける上でも良いのでは。	・アクションプランの冒頭に、まちづくり計画に記載されているゾーニング図を追加する。	第3回部会
3		札幌との連携は考えないのか。札幌のお客様を小樽に呼び込むため、札幌と連携を図ることも効果があるのではないかと。行きと帰りのどちらかに新幹線に乗ってもらうということでも良いと思う。 ⇒(事務局)行きは在来線、帰りは新幹線で移動することも考えられる。そういったことを含め、どこかで位置づけていきたい。	・2次交通対策「3(2)公共交通の利用を促進するサービスの提供と魅力づけ」の取組の概要「エ. 地域連携等による魅力的なサービスの提供」に、札幌市の滞在者を対象としたサービス(観光施設の特典等)の提供について検討する旨を記載する。	第2回部会
4		小樽の自然資源に関する記載がどこにもない。 ⇒(事務局)ご指摘を踏まえ、記載する方向で考えたい。	・取組の概要「エ. 小樽市内の歴史や文化資源を広く活用した観光プログラムの開発」の中に、小樽の自然資源を活用した取組を記載する。	第2回部会
5		(観光プログラムの開発について、)海、山、田園など、観光資源を大きな括りで当てはめて、深掘りしていく方が分かりやすいと思う。 ⇒(事務局)記載内容についてはご意見を含めて検討したい。		第2回部会
6		(コロナ禍のような不測の事態の発生に備え、)動画やPRのためのコンテンツなど、対策を考えておく必要があると思っている。 ⇒(事務局)動画については(2)項に書き加えていきたい。		・「1(2)地域連携による効果的な旅行商品等の情報発信」の取組の概要「イ. 地域連携による旅行商品の幅広いPR」に、動画やPRのためのコンテンツに関する取組を記載する。
7		1(2)地域連携による効果的な旅行商品等の情報発信 PRをしていく上で、小樽らしさとは何か、小樽のカラーやロゴを統一すべき。 ⇒(事務局の回答)ブランドイメージの統一を図ることは非常に重要な視点と考えている。内容に記載することを検討したい。	・統一化したロゴ等を用いたPRツールについて検討する旨を記載する。	第2回部会

資料3-7

部会での意見と対応方針【観光・産業振興部会】

協議会事務局
令和2年10月28日

No	項目	意見等	対応方針	委員発言
8	2(1) 滞在時間・宿泊客の拡大を目指した取組	冬場に朝里、札幌のスキー場、キロロ、ニセコに行けるということで、小樽を拠点に一週間くらい停泊まっているお客様も結構いるという。新しい視点で滞在時間や宿泊の拡大を考えていくことが必要。	・取組の概要「ア. 宿泊客拡大に向けた取組」に、長期滞在に関する取組を記載する。	第2回部会
9	2(2) 小樽の地域産業と観光産業の結びつき強化	おもてなし弁当やスイーツセットといった商品の開発とあるが、帰った後にも、ネットでも手軽に買えるものになれば良いと考えている。	・「小樽訪問時に体験した食や商品などを帰宅後にも継続して購入してもらえるような仕掛けづくりの検討」という内容の取組を記載する。	第2回部会
10		海に関する観光資源をもう少し考えても良いのではないかと考えている。	・「マリーナ」や「マリンスポーツ」に関する取組について記載を検討する。(記載場所についても検討)	第2回部会
11	2(4) 中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化	決済手段の多様化については、現状を把握することからスタートされた方が良いのではないかと考えている。	・取組の概要「ア. 中小事業者を中心とした外国人観光客への対応力強化」に、市内の中小事業者における、外国人観光客の対応状況(決済方法や多言語対応等)を把握する旨の取組を記載する。	第3回部会
12	2(5) 企業立地の促進	小樽は札幌との位置付けの関係でいうと、鎌倉に近いやり方で、知識集約型の産業を誘致するような方法がとれるのではないかと考えている。食・住近接型で楽しみながら働くというようなイメージづくりなど。	・2次交通対策「3(4)移住・定住の促進」とも連動するよう、取組の概要を修正する。	第3回部会
13	3(1) 新小樽(仮称)駅を起点とした新たな観光プログラムの創造	自然資源だけではなく、文化的資源も書き加えていただきたい。小樽には自然資源、文化的資源の両方に魅力がある。西洋人からすると日本文化の体験が望まれている。小樽には日本の家屋の雰囲気をもった施設や、北海道唯一の能楽堂など、ユニークなエリアが存在している。	・「1(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発」の取組の概要「エ. 小樽市内の歴史や文化資源を広く活用した観光プログラムの開発」の中に、文化的資源を活用した取組を記載する。	第3回部会
14		新幹線を降りてから周辺観光地を周遊できる、ワンデイトリップのツアーを作っているかなければならないと思っている。小樽の優位性を出せるようなツアーを考えていきたい。	・「1(1)小樽の文化・食資源を活用した多彩な個人観光客向けプログラムの開発」の取組の概要に、ワンデイトリップのツアーに関する取組を記載する。	第3回部会
15	4(1) 新幹線開業に向けた市民の意識醸成	開業までの間に、東北地域の方々とのつながりを作っておき、連携を図り、機運をお互いの地域同士で高めていくことが良いと思っている。	・取組の概要「ウ. 開業に伴う市民の新幹線利用促進戦略の検討・実施」の中に、東北地域とのつながり、連携に関する取組を記載する。	第3回部会
16	4(2) 開業機運を高めるイベントの実施	イベントについては、新幹線が開通している他地域の中でも同じような課題について議論されていると思う。今までの事例をお示し頂けないか。 ⇒(事務局の回答)今後事例を調査し、お示ししたい。	・新幹線駅で開催されているイベントについて事例収集・整理を行う。	第3回部会